

イベントカレンダー

第7回

参加費無料・申込不要

主催・共催 ●新河岸川流域川づくり連絡会
●新河岸川流域総合治水対策協議会

平成23年2月13日(日)
10:30~14:30(受付10:00)
荒川知水資料館 amoa アモアホール
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1

川でつながる
発表会

新河岸川流域内の学生が、川、水、環境について、日頃の活動成果を発表し、さまざまな世代が川について交流する場として、川でつながる発表会を開催します。

■プログラム■(予定)

- 10:30 開会
10:35 発表会/小学生から大学生、市民団体(7団体)
交流会/学校、市民団体、行政の取組みに関するパネル展示やクイズラリーなど
(12:00 昼食)
14:30 閉会

※当日は昼食をご持参ください。
※プログラムは現段階のものであり、今後変更する場合があります。



(出典: 荒川知水資料館HP)

お問合せ 新河岸川流域川づくり連絡会事務局

■国土交通省荒川下流河川事務所調査課
TEL: 03-3902-3220 FAX: 03-3902-2346

■日本工営(株)地域計画部防災マネジメントグループ 担当 鎌田
TEL: 03-3238-8257 FAX: 03-3262-4451

会場アクセス ★ご来場は公共交通機関をご利用ください。

- ・JR赤羽駅(埼京線・京浜東北線・高崎線)東口より徒歩約20分
- ・JR赤羽駅より都バス「豊島5丁目団地」行き「岩淵町」または「志茂2丁目」下車徒歩10分
- ・地下鉄南北線赤羽岩淵駅または志茂駅より徒歩約15分

事務局だより

平成22年度の第1~3回連絡会では、これからの連絡会の方向性について連絡会メンバーによる活発な意見交換が行われ、連絡会の目的案としてとりまとめられました。

現在事務局では、2月13日(日)の「第7回川でつながる発表会」の開催に向けて準備を進めております。日々進化する学生たちの取り組みを知ることで新たな発見や交流が生まれるかもしれません、ぜひご来場ください。



連絡会の様子

川づくり連絡会に参加してみませんか?

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて下記連絡先までお寄せ下さい。

■連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>
E-mail arage-shingashi@ktr.mlit.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS
新河岸川流域しんぶん

里川 SATO-GAWA

VOL. 62

発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日●平成23年(2011)1月31日



切り絵 毛利将範

目次

- P2 新河岸川流域の活動報告 in 2010
P3 連載: 流域の川をたずねて(7)
P4 イベントカレンダー・事務局便り
P5 特集: 総合治水対策と私たちの暮らし

この夏は記録的暑さでしたが、冬も負けず劣らず強烈な寒波がやって来ていますね。寒くても思いきって川べりに出ると、澄んだ空気に野鳥の姿もまぶしく見えます。

今号は、今年度最初の里川となりますので、春から秋にかけての川まつりの様子を報告します。2月に「荒川知水資料館」で開催が予定されている「川でつながる発表会」の案内も掲載しています。また特集記事は、「私たちの暮らしの中にある物」と新河岸川の総合治水対策との深いつながりをテーマにお届けします。



新河岸川流域の活動報告

今年度も、新河岸川流域の各地で市民を中心とした川の活動が活発に行われています。川まつりも5月から10月にわたり流域の各川で開催されました。元気に遊ぶ子供たちの表情を中心に報告します。

川まつり

今年度開催一覧

- ① 第12回 空堀川川まつり
5/30(日) ● 空堀川
- ② こどもとおとなの自然塾
7/18(日) ● 柳瀬川(志木)
- ③ きよせ川まつり 2010
7/24(土) ● 柳瀬川(清瀬)
- ④ 第17回 わくわく川掃除&川あそび
7/25(日) ● 落合川
- ⑤ 第12回 わいわい川あそび
8/1(日) ● 黒目川(新座)
- ⑥ 第15回 北山わんぱく夏まつり
8/1(日) ● 北川
- ⑦ 第11回 大森の池まつり
8/8(日) ● 不老川
- ⑧ 黒目川・川まつり
8/22(日) ● 黒目川(朝霞)
- ⑨ 富士見江川・川まつり
9/12(日) ● 富士見江川
- ⑩ 第14回 越戸川川まつり
10/16(土) ● 越戸川
- ⑪ 第10回 白子川源流まつり
10/24(日) ● 白子川
- ⑫ 黒目川・秋の川まつり 2010
11/14(日) ● 黒目川(朝霞・秋)

ひたってうかんで

川まつりの目玉ともいえる川あそびは、今年も大人気。ポートあそびにイカダコンテスト、魚とりから流れに身を任せる「川流れ」まで、多彩な川あそびに「水ガキ」たちは、水の中でいっそう生き生きしていました。



③ 柳瀬川(清瀬)



② 柳瀬川(志木)



④ 落合川



⑤ 黒目川(新座)



⑨ 富士見江川

さわってためして

陸の上でも多彩なあそびが展開されました。水鉄砲づくりやパズルに夢中かと思えば、恒例の水族館では普段見ることのない魚たちに興味津々。今年は、あそびの合間に消防庁の救助訓練なども行われました。



① 空堀川



② 柳瀬川(志木)



④ 落合川



⑥ 北川



⑦ 不老川



⑧ 黒目川(朝霞)



⑨ 富士見江川



⑫ 黒目川(朝霞・秋)

in2010

うたってきいて

バンドの演奏から川についての発表まで、ステージでのイベントは、まつりの雰囲気により一層盛り上げました。



⑩ 越戸川



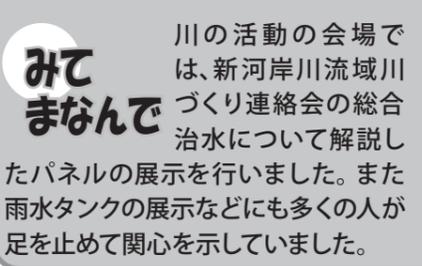
⑪ 白子川



⑥ 北川



⑩ 越戸川



みてまなんで

川の活動の会場では、新河岸川流域川づくり連絡会の総合治水について解説したパネルの展示を行いました。また雨水タンクの展示などにも多くの人が足を止めて関心を示していました。



⑪ 白子川

その他

11月6日には朝霞市リサイクルプラザで新河岸川流域川づくり懇談会が開催されました。埼玉県による事業概要の説明やアユの住む川づくりについての講演、水辺再生事業の紹介、意見交換が行われました。



※今回は流域内での活動の一部を紹介しました。流域内ではその他にも様々な活動が実施されています。また、市民の方々から写真を提供いただきました。

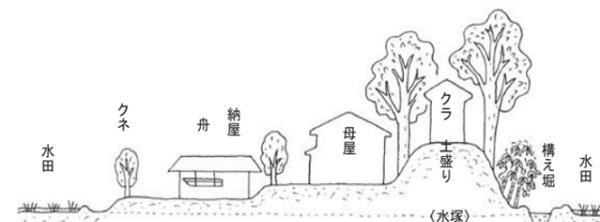
流域の川をたずねて(7) ~明治43年の大洪水から100年~

2010年は、明治43年の大洪水から100年目の年でした。これをきっかけとして、洪水の恐ろしさ、被災の苦しさ、それを防ぐための治水の大切さを知ってもらい、いつ起こるとも知れない災害への対応力を培う機会としてほしい。そうした願いをこめて、平成22年度に荒川下流河川事務所では、年間を通じて明治43年の大洪水に関する様々な取り組みを展開してきました。

明治43年の大洪水は、江戸時代の大洪水であった寛保二年(1742)、天明六年(1786)以来の大洪水といわれ、荒川放水路開削のきっかけとなった洪水です。この洪水による東京市内の被害は、死者18人、行方不明者3人、負傷者9人、建物の破壊・流出58棟、床上浸水88,495棟、床下浸水33,871棟、被災者数

555,478人。水が引くのに2週間もかかったといわれています。この明治43年の大洪水に関連して、新河岸川流域では、市民による水塚調査が行われています。水塚は洪水を避けるために築造されたものですが、ヒアリングでは「この蔵の1メートルくらいまで水に浸かったと聞いた。濡れた跡がはっきり残っていた。」「大水の水跡の印がある。私の背丈まできたらしい。」「洪水のときには、水塚の土盛りの高さぎりぎりまで水がきた。洪水時には周辺の人たちが避難してきたということだ。」など明治43年の大洪水に関する、先祖から伝えられているという多くの証言、記録も得られ、災害当時の様子が明らかにされています。

水塚調査の詳細については、里川59号・61号をご参照下さい。本連載はNPO法人エコシティ志木の毛利さんにご協力を頂きました。



水塚のしくみ図

(志木まるごと博物館 河童のつづら 編「水塚の文化誌」より転載)

水塚シンポジウムのご案内 ~惣圍堤と水塚の文化に学ぶ~

とき 3月6日(日) 13:30~16:30 ※事前申込み不要・終了後に懇親会も予定
 ところ 志木市いろは遊学館(志木市本町1-10-1)
 内容 明治43年の大水害の基調講演、志木の水塚調査の報告等
 費用 無料
 主催 NPO法人エコシティ志木
 &(財)埼玉県生態系保護協会志木支部環境フェア実行委員会
 問合せ先 TEL: 048-471-4275 (毛利)

総合治水対策と私たちの暮らし



～ 所沢名物 焼きだんご & 手打ちうどん のルーツをたどると見えて来た 深～いつながり ～

何を 食べたの？ そんなに 食へるの？

かっぱくん、冬休はどこに行きた？

所沢の家に親せきの家に遊びに行ったよ。

名物だって いろいろ 出されるもの 出さるもの 食へちゃって

食へるの？ うちで食べたよ...

20店以上の 焼きだんご 手打ちうどんの お店が所沢のまわりにあるんだよ！

※詳しくは「所沢市観光協会」のHPにあるよ。

名物 手打ちうどん

あとは...

焼きだんごだよ！

焼きだんごや 手打ちうどんは 麦や陸稲を

よりおいしく 食べようと 工夫した結果 生み出されたもの なんしょ。

台地は
○ゆるい傾斜の平野が広がり、川がその平野の一部をけずりながら流れているところ
○水が地中にしみこみやすいところ

丘陵地は
○傾斜があり、森が広がること
○川の源流があるところ

低地は
○土地が低く、川の水があつまること
○台地との境目から、水がわきでるところ

私たちが住んでいる 新河岸川流域は 丘陵地、低地、台地、低地のまわりに分けられるんじや。

台地にある 所沢では、雨水はすべて 地中にしみこむので 昔から水を溜めることがたいへん困難じゃった。

細で作ることのできる 麦やサツマイモ、陸稲などが作られて来たんじや。

使って 田んぼで 作る米のかわりに だから 水をたくさん 使って 田んぼで 作る米のかわりに

でもなぜ所沢には だんご屋さんやうどん屋さんが多いの？

はて どうしてなの？

こんなときは... かつげいに聞いてみよう！

まちが水びたし

その結果、台地といえども昔のまわりに 雨水が地中にしみこみ、一気に川に流れ込んだり、道路にたまったりして 都市型水害を引き起こす 危険性が高まってきたんじや。

でも、今では 新河岸川流域は 都市化が進んで、アスファルト舗装やコンクリートで 地表が おおわれてしまったのね。

昔は... 雨水は田畑や林の地面にしみこみ、地中からゆっくり川へ流れたよ。

都市化が進んで... 雨水は、地中にしみこまず、雨水管や地面の表面から一気に川に流れてしまうようになったよ。

このように「流域対策」は、「総合治水対策」のひとつなんだよ。「総合治水対策」には他に「河川対策」や「ソフト対策」があって、これらをあわせて行うことで、水害の危険性を小さくするんだ。

新河岸川流域でもいろいろな対策が行われているよ！

総合治水対策

- ハード対策
 - 川の幅を広げる 堤防を高くするなど **河川対策**
 - 雨水をためる施設・しみこませる設備をつくるなど **流域対策**
- ソフト対策
 - 水害に対応できる体制づくり 身を守る方法を知らせる など

緑地を保全する
緑地に降った雨水は、地中にしみこみやすいので、地中からゆっくりと川に流れます。

雨水をまちの中(公園・学校)にためる
屋根に降った雨水をためることが出来ます。ためた雨水は、晴れた日に水まきや洗車などに利用できます。

雨水を土にためるしみこませる
雨水貯留タンク、透水性舗装、雨水浸透トレンチ、雨水浸透マス

それで一時的に雨水をためたり、土へしみこませたりする流域全体での対策が行われるようになったんじや！

雨水を地中に浸透させます。豪雨時の浸水被害を減らす他に、地下水を豊かにするなどの効果もあります。